北栄町議会議長　　前　田　栄　治　様

北栄町議会議員：油本朋也

議員派遣結果報告書

1	名　　称	令和７年度鳥取県町村議会議員研修会
2	場　　所	アロハホール（湯梨浜町）
3	期　　間	令和７年１１月２８日（金）　１日間
4	所　　感	①『地方議員のなり手不足の背景を考える 議員報酬・議員定数も意識して』 ▶議員報酬 ・なり手不足の一因には、常に報酬の低さが指摘される。 ・現在の報酬の設定基準において市議会議員と町村議会議員の格差は常に感じている。各々の地域の抱える問題に挑み、その解決ため使命を背負う地方議会議員の報酬のこれほどまでの格差は、違和感を超えた不満となり期歴を重ねるごとに大きくなっている。 ・市町村議会議員が自らの報酬を上げることの難しさは既に経験し十分に認識しているが、県中部の市町においては報酬審議会が存在し、それによってこの地域の議員報酬が決定されるが現状。 ・脱却し各市町で報酬を決定できるようするには、まず県東部のように報酬審議会という概念をなくし、もしくはその組織から離脱し各市町で自らの考え方を、かなりの時間とエネルギーの消費という大きな困難が待ち構える事態を覚悟の上で、住民の一定の理解を得る努力を行うことが報酬を自らコントロールできる第一歩になるのでは。慣習となっている県中部圏域の周辺市町と足並みを揃える護送船団方式の考え方を一掃することが必須になってくる。 ・可能ならば公務員の給与が人事院勧告によって変化するように、議員の報酬も同様の方向に移行さえすれば、その報酬額が国の定める規定に則って勧告され、議会はただシステマティックにそれを議決するだけになる。議会の負担はかなり軽減され合理性を担保されるのではないか。声を上げてもよい時期ではないか。

		▸議員定数 ・各自治体の人口規模に応じて決定すべきという考え方にも人口減少の一途をたどる地方には限界がある。 ・講師の資料にあるよう、議論する組織として機能するための適正な規模を維持することは不可避と考える。 ・住民の声を拾うという最も大切な任務の一つが機能しなくなる事態は回避すべきである。 ・無投票・定員割れに批判があるが、候補者数が選挙時に定数が満たされているか、または超過していればそれでいいのか。年齢性別に縛られることなく、真にやる気のある人・適合する能力のある人の集団であれば、選挙戦の有無にかかわらず本来の議会に課せられた責務は果たせると考える。 ②『住民が求める地方議会・期待される議会とは何か』 ・勘に頼るのでなく、客観的に示されたデータ等を元に論理的な公式通りに議論を進めていけば、その自治体が内包する諸課題の解決に向かうという講義。言ってみれば至極当然。 ・問題をどう把握し、どう解決するかが大切。議員定数の理論とリンクするテーマ。 ・MLB でも運動解析ソフトで可視化された客観的データによりプレイヤーのパフォーマンスの向上と故障の予防につながり、モーションキャプチャーによって得られるデータはスポーツだけでなく、ロボット開発や医療分野でも今や不可欠な技術である。 ・一方で今年の NPB の優勝監督は「経験に基づいた一瞬の閃きがシリーズの行方を分けた」とコメントしていることも事実。 ・客観的なデータと、過去の経験値を融合させた議会であれば、理想とする能動的な機能を持ち、地域の発展・住民福祉の向上につながり、「地域の住みやすさ」の具現化が可能になるだろうが、機会があれば現地視察に行ってみたい。

提出期限　　令和７年１２月１９日（金）まで